



網走市立図書館 前編

網走（あばしり）は北海道でもかなり知名度の高い町でしょう。
やはり刑務所、魚、流氷のイメージが強いのでしょうか？

網走は北海道のどの辺なのかご存知じゃない方もいるかもしれないのでご紹介します。オホーツク海沿い。知床半島よりもう少し北に位置します。

漁業はホタテやカニなど大変盛んです。また日本最北の捕鯨基地でもあり、沿岸小型捕鯨業を行っています。市内には網走湖や能取湖など湖にも恵まれているので内水面漁業も行われておりワカサギ、シジミ、シラウオ、エビなどの漁も営まれています。

人口は31000人ほど。面積は470.9 km²。道内ではとても小さい市です。同じオホーツク管内では北見市1427.4 km²、紋別市830.7 km²です。

お寿司やお魚好きにはたまらない町ですよ。しかし私はかなりの回数訪れているのに、一度も魚介類を網走で食べたことがないのです。いつも駅前付近のホテルに滞在するので、どうしても周辺の飲食店に限られています。するとファミレスのヴィクトリアステーション網走駅前店ばかりお世話になっています。でも駅前の角にある「アルカディア」というイタリアンも美味しいですよ。アルフィーファンなら「アルカディア」と聞いたらグッときますよね。（アルバムの名前です）

札幌から網走へ向かうには飛行機、JR、高速バスと3通り。今回の訪問はバスで各地をまわり、帰りは女満別空港から札幌丘珠空港の空路を使いました。女満別は網走へ行く場合の最寄りの空港です。知床方面もこちらからバスがあります。フライト時間は40分程度。

網走駅入口にある木製の駅名看板は珍しく縦書きになっています。刑期を終えた網走刑務所の受刑者が「横道にそれずまっすぐに生きて行ってほしい」という駅長の思いから縦書きになったそうです。

1987年まで網走駅には乗り換えできる列車がありました。網走から中湧別という町まで運行していた湧網線です。中湧別まで行くと1989年に廃線になった名寄本線に乗り換えることができたので、紋別、興部を経由して名寄まで行くことができました。

網走から乗車すると網走湖、能取湖、サロマ湖の湖畔やオホーツク海沿いを走るととても景色の美しい路線です。左右どちらの景色も美しいので、座席選びに迷ったものです。現在この区間のバス代行はなく、私のように運転できない者はこの景色を味わうことができません。北海道で一番復活して欲しい路線です。

いつものように図書館について綴るのにかなり迂回してしまいました。

1893年、網走市図書館の前身として網走書籍館という読書施設が開設されており、キリスト教伝道活動に関係するものではないかと言われています。（「史跡標柱ガイド網走歴史散歩」参照）

1906年、日露戦争終戦を記念して網走尋常高等小学校長で初代所長になる安田貞謹ら有志によって、「日露戦役記念網走図書縦覧所」を開設したのが始まりです。翌年「日露戦役記念私立網走図書館」と改め、1908年洋館風図書館が建てられました。

札幌時計台のような2階建て建物だったそうです。その後1961年建て替えられ、現在の図書館は2000年にオホーツク・文化交流センター（愛称：エコセンター2000）の複合施設として開館しました。

なお、北海道初の公立図書館は1903年に開設した枝幸町図書館です。その後1916年に市立小樽図書館、1920年室蘭市図書館が開館します。網走図書館がいかに道内の初期に開館されたかがわかります。

オホーツク・文化交流センターは、網走駅から徒歩15分ほどですが、網走駅前バス停よりバスで「エコセンター」もしくは「オホーツク合同庁舎前」にて下車、徒歩5分ほど。網走川沿いです。

網走の出身者やゆかりのある著名人は文芸評論家の川村湊氏、連続殺人事件で逮捕され死刑が執行されるまで獄中で作品を書いた永山則夫死刑囚などたくさんいます。

そして何度も映画や小説の舞台にもなっている町です。映画『網走番外地』を見て劇場から出てくると、つい自分が高倉健さんのような気分なったりしませんでしたか？（笑）

まだまだたくさん素晴らしいコンテンツが網走にはあり、その資料が網走図書館の郷土資料コーナーに保存されています。

（後編に続く）

2025年5月訪問

加藤 重男